

老朽原発
うごかすな!
ニュース
第125号
 発行・老朽原発うごかすな!
 実行委員会
 [連絡先]
 090-1965-7102

原発推進は、無謀・理不尽だ!
若狭と能登で、廃炉に

6・9「とめよう! 原発依存社会への暴走」大集会はデモ中に雨がぱらつくというあいにくの天気ながら、参加者の熱気が会場やデモコースにあふれだしていたように思う。

当日発言者の誰もが強調したように、地震多発のこの日本での原発推進はまったく無謀で理不尽なものだ。会場にあふれた熱気はなぜこんな理不尽がまかり通るのかという強い憤りと、若狭の老朽原発群の直近で大地震が起こったらどうなってしまうのかという深い危機感に根差したも



デモの先頭集団 (韓国、全国、福井、滋賀など)

のだったと思う。1月1日の能登半島地震で、あれほど大きな地震がひとつたび起きればもうどこにも逃げ

られない、避難計画には頼れないということが明らかになったにも拘わらず、政府・電力資本は原発推進の姿勢を全く変えようとしていない。これほど無謀で理不尽な話はない。私たち志賀原発に反対してきた者たちは、「能登半島地震は最後の警告だ!」と訴え、6月30日、金沢四高記念公園を会場に「さよなら! 志賀原発 全国集会 in 金沢」を開く予定だ。

能登半島地震後も、残念ながら志賀原発のことは全国的には印象が薄いままになっていくように思う。しかし、志賀原発こそ無謀原発、理不尽原発のまさに象徴だといっている。志賀原発はすでに2

021年に、関電、中電から電気を買い取る契約を解除されて、再稼働しても電気の売り先の目途はない。原子力規制委の審査も、今回の地震であらためて周辺の大きな活断層との関連性が指摘され、先行きは全く見えなくなった。いつまた大きな地震が襲ってくるかわからないのだ。さらに地震の影響によって変圧器ばかりかタービンまで使い物にならなくなったことが明らかになり、

かなり、いわば発電所としての機能さえ失った状態にある。こんな原発にまだお金をかけようなどと考えること自体、理不尽の極みとしか言いようがない。

若狭の老朽原発と能登の理不尽原発、共に力を合わせ、今すぐ廃炉に追い込みましょう。

(命のネットワーク 藤岡彰弘)

原発賠償訴訟判決は、12月18日
通行する高校生からの「原発反対」の声

私は今回、原発賠償京都訴訟原告として登壇させていただきました。会場の皆さんの顔を見ながら話しをした時に力強さや熱気を感じ、とても勇気づけられました。皆さんの熱い思いを受け取った、そんなふうに感じました。それ

は、私たちの裁判は原告当事者だけの裁判ではない、原告

6月30日「さよなら! 志賀原発 全国集会 in 金沢」に結集しよう!
原発全廃への突破口に! (大阪、京都からバスが出ます。乗車ご希望の方は実行委員会へお問い合わせください。)



登壇した京都訴訟団のみなさん

「とめよう! 原発依存への暴走」のポテッカーが!



を感じたからだと思いません。また、集会前から同じ思いの人がこんなにも集まってくるといことが嬉しく、集会の皆さんの発言では、「そうだ!」と心の中で叫び、大きく領いていました。

デモでは、高校生数人の飛び入り参加があり、マイクを渡すと「原発反対!」「原発嫌だ!」などを順番にコール。ふざけ半分だったかもしれま

せんがとても楽しそう、それにつられて歩き疲れていた私たちも思わず笑顔になり元気づけられました。こんなふうに若い人たちにもっと参加してもらいたい、そんな集会やデモにしていけたらと思っ

た瞬間でした。しかし、これだけ多くの人が参加していても、沿道の人々の反応はさまざま、関心のない人、知らない人も多いように思いました。そんな様子を見ると、どんなにたくさん

の人が集まり声をあげても、敵わない相手と闘っているのかと弱気な気持ちになりそうでしたが、声を上げ続ける人がさらに増えれば、巨大な岩も動かせるのではないかと思える、そんなデモとなったように思います。

最後にありますが、私はこの集会で全国各地から多くの方が集まり、原発に関する様々な問題に取り組み声をあげていることを肌で感じる事ができて、ここからまた頑張ろうと思えました。今後も連帯して取り組んでいきたいと思

原発賠償京都訴訟の判決日は12月18日です。国の責任を明確に認めた判決を勝ち取ることができるよう、引き

能登の北野さんや韓国のイウォニョンさんが訴えた多彩な、楽しい集会だった

司会を担当させていただきました。イベントに三線の演奏があるというので12時少し前にはうつぶ公園に到着しました。

司会担当としては実行委員会の皆さんの準備のおかげで、台本通りに進行すればよく、実行委員会の皆さんに感謝でした。

公園から流れるプレイベントの音楽は、参加者の皆さんに心ウキウキさせるように感じました。ただ、暗い空模様

が恨めしくも思いました。舞台壇上にずっといられる司会は登壇者の皆さんの1人1人をしつかり集中して確認できるとも贅沢な役割でした。能登半島地震で被災者となっ

続きのご支援をよろしくお願

いたしました。(原発賠償京都訴訟原告団 共同代表 堀江みゆき)

た北野さんのお話は、3月に美浜の集会があったものの、関電管内での大きな集会は初めて、珠洲原発の建設阻止ができたからこそ原発被害が起

こらなかつたことを改めて確認する機会となりました。20年前に建設阻止された関電の珠洲原発の闘いが、感謝になって会場で共有されました。会場の参加者から拍手

や太鼓、合いの手で賛同の声がかかるのは心強く感じました。ポテッカーを掲げる会場は集まってこられた人々で埋められていました。前日に行われた京都の「核汚染水海洋投棄ストップ!!!」世界市民行進」にも参加され、2日続けての参加者もたくさんいたようです。みなさんの



イ・ウォニョンさん(演壇中央)と韓国のみなさん

脱原発の思いを強く感じました。韓国のイウォニョンさんは「脱原発運動は世界の民衆が連帯できる。それが可能な時代だ。」「脱原発!」と声を合わせようと訴えました。とても力強かったです。

集会終盤、雨が少し強くなることもありましたが、難波までの長いデモの間、ほとんど傘をさすことなく、街に出てきた多くの人たちに訴えながら歩き続けました。途中高校生らしき数人が「原発反対」「原発やめろ」のコールをマイクを取って合流する場面もありました。

(被災者支援奈良のつどい 実行委員会 堀田みえこ)